

看護基礎教育において4年制大学が選択されるための訴求ポイントに関する基礎的研究

大阪芸術大学短期大学部 看護学科 教授 生島 祥江

(共同研究者:大阪芸術大学短期大学部 看護学科 教授 濱井 和子)

【はじめに】

団塊の世代が後期高齢者となり始める 2025 年には高齢者の割合が増加し、それを支える生産年齢人口の減少により労働力が不足する。それは、医療介護において、需要は増えるが医療従事者の必要数が不足することにつながる。

一般高校生が看護師になるには、看護系大学、専門学校のほか、3 年制短期大学がある。現在、看護師を養成する大学は 256 校、専門学校は 540 校以上あるのに対し、短期大学は 11 校である。看護師養成校への 2022 年の入学者の割合は、大学が 42.2%、専門学校が 42.1%で、残り 15%は、中学卒業資格者の 5 年一貫教育、准看護師資格を有する者の看護師養成課程であり、短期大学はわずかである。現役高校生の大学進学率 55%強、専門学校 20%強に対し、看護師を目指す高校生の専門学校進学率が高い。看護師養成校は、養成所が圧倒的に多いため、全体的な高等教育機関の進学比と比較して専門学校進学が多いのは当然と言わざるを得ない。

当初、看護基礎教育の4年化が進んでいる中、3年制の短期大学での看護師養成課程の社会ニーズについて明らかにする予定であったが、本学が4年間の教育で看護師を養成するのに伴い、今後の教育の基礎資料とするために看護系大学入学者の大学志望動機の傾向を明らかにすることとした。

先行研究では、看護職の志望動機が前提として存在することや大学志向の動機があることが明らかになっている。一方で、「なんとなく」といった志望動機が不明瞭であったり、本来の志望とは違っていたりする学生の存在も明らかになっている。そこで、3年で看護師国家試験受験資格を得られるにもかかわらず、大学での教育を受けようとする学生の動機を、文献を通して明らかにし、オープンキャンパスの来場者が入学後の自分を想像できる企画、入学後の学習支援の基礎資料とする。

【研究目的】

看護系大学の学生を対象に調査した文献を検討し、看護系大学の志望動機を明らかにする。

【研究方法】

対象文献は2011年4月から2023年8月とした。2011年1月の保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令を公布され、4月より保健師及び助産師の基礎教育における修業年限がそれぞれ「6か月以上」から「1年以上」に延長され、学士課程における保健師教育を含めるか希望する学生が選択できる教育課程とするか、また看護師教育のみするかを大学が選択できるようになった、2011年4月からとした。医中誌 Web および CiNii Articles にて、検索用語「看護」「志望」「動機」をかけあわせ、抽出した。重複文献を整理し、文献研究論文、志望動機の調査項目または結果としてすべて記載されていない文献、看護系大学の学生を対象としない文献を除外し 12 件を分析対象とした。

【結果】

志望動機を表す総項目数は、260 であり、これらの項目を意味内容の類似性に基づき集約したところ、看護系大学を志望した動機は《職業の価値認識》、《看護職への興味・関心》、《自己実現》、《進路の妥協》、《大学教育の価値認識》の 5 カテゴリーと 20 サブカテゴリーから形成された。以下、カテゴリー毎にサブカテゴリーを示す。

1.《職業の価値認識》

このカテゴリーは、〈社会貢献への志向〉、〈看護職の社会的価値認識〉、〈資格取得への志向〉、〈経済的能力の獲得〉、〈他者への手助け志向〉、〈社会的承認への欲求〉の 6 サブカテゴリーから形成された。

2.《看護職への興味・関心》

このカテゴリーは、〈モデルの存在による興味・関心〉、〈医療・看護への興味〉、〈体験・経験からの看護への興味・関心〉、〈憧れ〉、〈人間への興味〉の 5 サブカテゴリーから形成された。

3.《自己実現》

このカテゴリーは、〈自己の特性が看護職に適合すると判断〉、〈自己の向上志向〉の 2 カテゴリーから形成された。

4.《進路の妥協》

このカテゴリーは、〈他者からの勧め〉、〈学力が適合〉、〈消極的な選択〉、〈動機不明瞭〉の 4 カテゴリーから形成された。

5.《大学教育の価値認識》

このカテゴリーは、〈大学での教育を志向〉、〈大学進学への希求〉、〈大学の社会的条件が適合〉の 3 サブカテゴリーから形成された。

【考察】

看護系大学への入学は、看護職を志望する学生が大半を占める中、将来像が描けないまま、近年の大学志向の風潮にのって、周りからの勧めや学力に合っているなどの理由で、必ずしも自らが強く看護職を志望しているとは限らない。看護職を志す学生は、これまでの体験やメディアを通して看護職に興味をもち、看護職が自身の成長につながる職業かを吟味して、資格の取得、手堅い就職、自立できる収入といった社会の評価をもとに看護職への志望を高め、大学で教育を受けたいと思い看護系大学へ入学しているので、学習意欲が高い。将来の職業選択については、オープンキャンパスで入学後の自分を想像できる企画の実施、入学後の自己成長によって看護職を志望できるような学習支援が必要となる。

【結論】

看護系大学の志望動機は《職業の価値認識》、《看護職への興味・関心》、《自己実現》、《進路の妥協》、《大学教育の価値認識》であった。